

武田 靖弘 (タケダ ヤスヒロ)

本州化学工業株式会社社長



持続的成長に向けた事業基盤の 強化・構築のための投資

◆当社の特徴

当社は、1914年に和歌山市において創業して以来、フェノール誘導品に特化し国内外において事業を展開している。当社は、主原料のフェノールおよびメタパラクレゾールを三井化学から購入し、これを使用して各種のフェノール誘導品の製造を行い、顧客である樹脂、フォトレジスト、医薬品の各メーカーに中間原料として販売している。当社は、1988年にビスフェノールA事業を旧三井石油化学工業に譲渡したのを機に、ファインケミカル製品を主力とした事業構造への転換を図っており、またバイエル社向け特殊ビスフェノールの生産販売拠点としてハイビス社をドイツに設立するなど海外への事業展開も積極的に行っている。

当社は、将来のマーケットにおいて自社の強みを発揮できる製品を特に「コア製品」※と位置付け、これを見だし、育成、強化・拡大を図っていくことを事業運営上の基本方針としている。

※「コア製品」とは、①成長する市場がある②独自技術が活用できる③世界のマーケットシェア1位または2位であることの3条件を満たす事業と位置付けており、現在は"ビフェノール"、"特殊ビスフェノール"、"フォトレジスト材料"および"トリメチルフェノール"の4事業がある。

◆2007年3月期実績

■事業環境とコア製品の販売状況

全般としては、原材料価格が期前半において急騰し、期後半においても高止まりの状況が続き収益圧迫要因を抱えた厳しい事業環境の下に置かれたが、各部門の概況は、次の通りであった。

【高機能樹脂原料部門】

●ビフェノール〈液晶ポリマー（LCP）原料〉

ビフェノールは、耐熱性、精密成形性に優れた"液晶ポリマー（LCP）"（パソコンや携帯電話等の電子部品に使用）の原料として、今後共需要が拡大していくものと見込まれている。

2007年3月期は、国内においてIT関連機器やデジタル家電の生産・在庫調整終了による需要回復を背景に販売がおおむね堅調に推移したため、国内の売上高は前期に比べ増加したが、輸出は、競合他社との競争激化により不調であった。

このような状況の中で、当社は、昨年の夏にプラント合理化工事を実施しコストダウンの強化徹底を図るとともに、原料価格上昇に見合った価格改定に努めたが、海外ユーザーとの交渉は難航した。

●特殊ビスフェノール（特殊ポリカーボネート樹脂・特殊エポキシ樹脂原料）

特殊ビスフェノールは、耐熱性、光学特性に優れた特殊ポリカーボネート樹脂や特殊エポキシ樹脂の原料として使用されており、特殊ポリカーボネート樹脂は自動車用部品や光学用電子部品向けに、特殊エポキシ樹脂はエポキシ封止剤・積層板向けに需要の増大が見込まれている。

2007年3月期は、ハイビス社によるバイエル社への特殊ポリカーボネート樹脂の販売が引き続き好調であった。

なお、当社は、バイエル社からの要請に応えるため、和歌山工場の既存プラント転用による増産対応工事を実施していたが、本年3月に完了した。

【高機能化学品部門】

●フォトレジスト材料

フォトレジスト材料は、半導体、液晶ディスプレイ（LCD）の製造過程で使用されている。

2007年3月期は、IT関連機器やデジタル家電の生産・在庫調整終了による需要回復を背景に、半導体用およびLCD用のいずれも線用材料を中心に販売が堅調に推移した。

●トリメチルフェノール（ビタミンE原料）

メタパラクレゾールの誘導品であるビタミンE原料のトリメチルフェノールは、家畜用飼料の添加剤として

使用されている。

2007年3月期は、引き続き輸出を中心に好調に推移し、競合他社の販売シェアの一部を獲得することができた。

■連結業績概要

●全般

売上高は190億11百万円（前期比10.7%増）、経常利益19億43百万円（同29.2%増）、当期純利益9億82百万円（同7.9%増）であった。

●売上高

【高機能樹脂原料部門】

国内外を合わせたビフェノールの売上高はほぼ前期並みであったが、ハイビス社による特殊ビスフェノールの売上高が前期に比べ増加したため、部門売上高は70億20百万円（前期比12.8%増）となった。

【高機能化学品部門】

前期に比べ、フォトレジスト材料の売上高が若干増加するとともに、トリメチルフェノールの売上高が大幅に増加したため、売上高は100億10百万円（前期比10.2%増）となった。

【その他化成品部門】

引き続きリセール製品の整理・削減を行ったが、受託生産品の売上高が増加したため、19億70百万円（前期比5.8%増）となった。

当社総売上高の変動（前期比10.7%増の18億30百万円増）要因は、価格差4億円増と数量差14億30百万円増によるものである。

●利益

増販とコスト削減により増益となり、経常利益は、連結ベースで19億40億円（前期比29.2%増）、当社単体ベースで13億円（同5.6%増）、当期純利益は、連結ベースで9億80百万円（同7.9%増）、当社単体ベースで7億60百万円（同1.1%増）であった。

●貸借対照表

資産については、当社173億円（前期比10億50百万円増）、ハイビス社54億30百万円（同1億60百万円増）、負債純資産については、当社181億50百万円（同10億50百万円増）、ハイビス社30億20百万円（同1億50百万円減）、少数株主持分15億70百万円（同3億円増）であった。

この結果、株主資本比率は43.9%（前期42.2%）、D/Eは0.52（同0.64）となった。

●キャッシュフロー

営業キャッシュフローは、当社12億10百万円（前期17億50百万円）、ハイビス社10億70百万円（同6億20百万円）、投資キャッシュフローは、当社マイナス13億10百万円（同マイナス10億80百万円）、ハイビス社マイナス40百万円（同マイナス2億20百万円、ドイツ政府補助金分+2億30百万円）、財務キャッシュフローは、当社マイナス50百万円（同マイナス8億30百万円）、ハイビス社マイナス9億40百万円（同マイナス2億10百万円）であった。

●経営指標

中期目標は、経常利益24億円、総資産経常利益率10%としているが、2007年3月期の総資産経常利益率は、8.8%となった。

2007年3月期の株主資本比率は、43.9%（中期目標は40～45%、前期は42.2%）であり、D/Eは、0.52（前期は0.64）となった。

●配当（単体ベース）

2007年3月期の期末配当は、前期末比1円増配の9円（年間15円）を予定しており、株主資本配当率は1.9%、配当性向は22.5%となる見込みである。

◆2008年3月期見通し

■事業環境

全般としては、原材料価格が引き続き高止まりのまま推移するものと見込まれるが、部門別の見通しは、次の通りである。

【高機能樹脂部門】

ビフェノールは、国内販売については引き続きIT関連機器やデジタル家電の需要増加を背景におおむね堅調

に推移するものと見込まれるが、輸出については競合メーカーとの競争が激化するものと予想される。

フォトレジスト材料は、IT関連機器やデジタル家電の需要増加によりおおむね堅調な販売のまま推移するものと見込まれるが、製品価格の値下げ圧力が高まるものと懸念される。

【高機能化学品部門】

特殊ビスフェノールは、バイエル社向けについては在庫調整の影響もあり前期ほどの需要増大は望めないものの、総じておおむね堅調に推移するものと見込まれる。

トリメチルフェノールは、引き続き海外での需要が堅調に推移するものと見込まれる。

■課題

原材料価格の上昇に見合った製品価格の改定、競争力の強化（主要製品の変動費削減、固定費削減）、事業構造の変革（コア事業の強化・拡大、新規事業・製品の育成）に努めていくこととしている。

■2008年3月期の通期業績見通し

●売上高190億円（2007年3月期比0.1%減）、経常利益18億円（同7.4%減）、当期純利益9億円（同8.4%減）となる見込みである。

●部門別売上高

【高機能樹脂原料部門】

ビフェノールは2007年3月期並みの売上高を確保することができるものの、特殊ビスフェノールは需要減退により当社での売上高が減少するため、部門売上高は63億50百万円（2007年3月期比9.5%減）となる見込みである。

【高機能化学品部門】

フォトレジスト材料は堅調な需要増加により、またトリメチルフェノールは海外需要の増大により、それぞれ売上高が増加するため、部門売上高は105億円（2007年3月期比4.9%増）となる見込みである。

【その他化成品部門】

受託製品の増加により、部門売上高は21億50百万円（2007年3月期比9.1%増）となる見込みである。

当社総売上高の変動（2007年3月期比0.1%減の10百万円減）要因は、価格差2億円増と数量差2億10百万円減によるものである。

●利益

経常利益は、連結ベースで18億円（2007年3月期比7.4%減）、当社単体ベースで14億50百万円（11.1%増）、当期純利益は、連結ベースで9億円（同8.4%減）、当社単体ベースで9億50百万円（同24.2%増）となる見込みである。

●投資

投資は、連結ベースで21億円（2007年3月期17億10百万円）、当社単体ベースで20億60百万円（同16億70百万円）、償却費は、連結ベースで16億80百万円（同15億50百万円）、当社単体ベースで12億30百万円（同11億円）となる見込みである。

●計数目標

経常利益18億円（2007年3月期19億40百万円）、ROA7.9%（同8.8%）を目標としている。

●コア製品売上率

コア製品の売上高は108億円、総売上高に占める割合は57%（2007年3月期と同一）となる見込みである。

◆今後の事業戦略

事業構造の変革のための施策を、次の通り計画している。

■持続的成長に向けた事業基盤の強化・構築のための投資

【高機能樹脂部門】

●バイエル社向けの特種ビスフェノール（特殊ポリカーボネート用途）について、当社およびハイビス社2拠点による生産体制を確保するため、当社和歌山工場の既存プラント改造による増産工事を本年3月末に完了しており、現在試運転を行っている。

●ビスフェノールF（特殊エポキシ用途）の需要増大に対応した安定供給体制を確立するため、既存プラントの増強を行い、2008年2月完工の予定である

●ビフェノールの競争力強化のため、プラント合理化工事を2006年7～9月に実施した。

【高機能化学品部門】

●当社の基幹事業であるクレゾール誘導品事業について、川下への展開による原料からの一貫生産体制の構築を現在検討中である。

●フォトレジスト材料について、高度化するニーズに対応した品質向上を図るため、メタルフリー化設備の増強を行い、本年6月完工の予定である。

■新規事業の育成

今後の成長が期待される電子・情報材料用途分野における製品として、特に感光性ポリイミド材料や特殊エポキシ材料（ビスフェノールF）の販売活動の強化を行っていくこととしている。

（平成19年6月1日・東京）